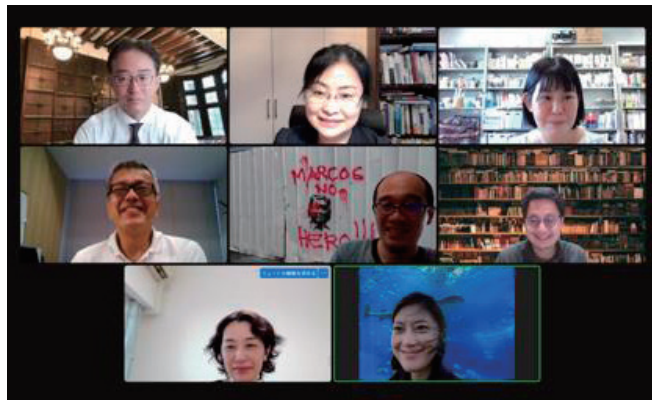


ではフィリピンの中国の権威主義体制への傾倒が指摘されることもあるが、木場氏の所見では、同国が中国寄りに見えるのは、エリート層と中間層の米国へのコンプレックスと「独立した外交政策」への希求のためだという。実際には外交面・安保面・文化面いずれも米国べったりだが、中国や、国内の米国懐疑論に配慮して、オーディエンスによって演じ方を使い分けているということであった。

報告後、ディスカッサントの本学法学部大庭三枝教授及び石井梨紗子准教授からコメントと質問があった他、佐橋亮氏(東京大学東洋文化研究所准教授)からは、世界的に懸念されているディスインフォメーションやフェイクニュースがフィリピン政治にもたらす負の影響に関する問題提起が、大泉啓一郎氏(亜細亜大学アジア研究所教授)からは、ボンボン・マルコス

が「デジタル世代」である若い有権者層に対してどのようにメッセージを発信したのかという質問が出された。さらにフロアからも質問が提示され活発な議論が交わされ、有意義な研究会となった。



## 2022年度 アジア研究センター活動報告 2022年4月～2022年9月

※講演者・出張者等の肩書は当該活動当時

### 共同研究グループ主催による公開研究会

- 研究グループ：「アジアの政治発展」  
日 時：2022年7月27日(水)  
テーマ：「フィリピンにおける民主主義の進展と後退」  
報告者：木場 紗綾氏  
(神戸市外国語大学国際関係学科 准教授)



### 共同研究グループによる出張

- 研究グループ：「アジアのデザインに見る文化の性質」  
《国内》  
出張者：松本 和也(所員 本学国際日本学部教授)  
出張先：北アルプス展望美術館、松本民芸館(長野県)  
日 程：2022年7月15日(金)～7月16日(土)  
目 的：近代文化関連資料の閲覧・調査
- 出張者：松本 和也(所員 本学国際日本学部教授)  
出張先：高松市美術館(香川県、岡山県)  
日 程：2022年8月2日(火)～8月3日(水)  
目 的：近代文化関連資料の閲覧・調査